

令和元年度生徒指導集中対策及び生徒指導実践指定校「特別活動の取組事例」

学校名	広島県立河内高等学校	校長	栗田 正弘	生徒指導主事	川原 栄治
-----	------------	----	-------	--------	-------

取組事例名 『他者を認める姿勢を育むホームルーム活動の実践』

取組における育てたい資質・能力

人間関係形成		社会参画		自己実現	
「他者理解・共感力」	2	「主体性・積極性」	3	「自己理解・表現力」	1

取組のねらい

撮影した写真を用いて、オリジナルCMづくりを行う。そのCM作品を通して、「家族」「いのち」への思いを共有する活動を行い、他者を認め、自他の個性の理解及び寛容する心を養う。

取組の具体的内容 / **取組の創意工夫**

1限目 *主に夏季休業中に撮影した写真を元に、CMづくりを行う。
(某生命保険会社のHPを利用)

2限目 *作成したCMの自己評価を行う。*グループ内でCMを発表し、相互に評価する。*グループの代表作品を決める。
(グループ全員の写真を使って代表作品としてもよい。)

3限目 *グループごとに、代表作品を紹介する。*各グループの作品について、それぞれのグループ内で話し合い、肯定的に評価する。*全ての活動について振り返る。*振り返りを共有する。



1限目 『自己理解』『伝える』

2限目 3限目
『他者理解』『感じる』
『協働的な学び』『共感』『意欲』



取組の成果と課題



これは取組の前後に実施したアンケートの結果の一部である。どちらも取組を実施していない2・3学年に比べ、肯定的な回答をした生徒の増加が顕著であった。しかし、「自分には良いところがあると思う。」に対して「とてもよくあてはまる。」と回答した生徒は大きく減少している。これは内面的な成長に伴い、自己を評価する基準が厳しくなったためであると考えられる。来年度は、今年度の取組を継続的発展的に実施するとともに、生徒の主体的な活動を促し、また日々の授業中の学習活動を改善することによって、自己肯定感を高める取組を行いたい。

以下は全ての取組終了後の生徒の感想からの抜粋である。

『伝えること』『感じること』はむずかしい。「伝え方を考えないと伝わらない。」「自分の思いを客観的に見る必要があると思った。」「想像して理解しようとするのが大切。」「自分について改めて深く考えた。」「自分が思ったことをちゃんと伝えようと思った。」「みんなすごいと思った。」「いろんな人のことを想像して幸せな気持ちになれた。」「人それぞれの価値観があつていいなと思った。」「みんなルールを守っていて不快なものなかった。」「自分が見れないものを見れて感じられないものを感じることができた。」「しゃべったことのない人としゃべってみたい。」「人が思っていること、伝えたいと思っていることを正確に感じ取りたい。」 数値以上に取組の効果を感じることができると思われる。